

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

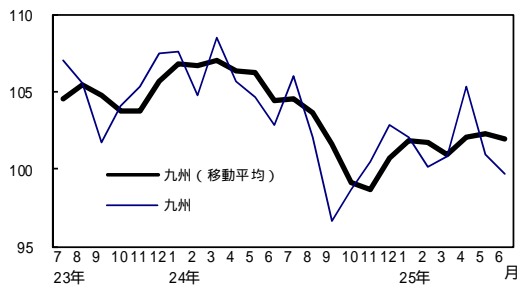
	前回(平成25年5月)	今回(平成25年8月)	
景況判断	持ち直しの動き	持ち直し	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直し	
個人消費	底堅く推移	持ち直し	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

4～6月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン向けモス型計数回路(CCD)の需要増等から増加した。輸送機械は、海外向けの普通自動車为好調だったこと等から増加した。食料品・たばこは、焼酎が原料不足による生産減となったこと等から減少した。一般機械は、半導体製造装置が半導体需要低迷により低調だったこと等から減少した。化学は、合成ゴム等で増加した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	15.6	4.6	1.7	11.3	3.4	10.6
輸送機械	15.4	3.8	2.2	16.5	15.7	6.3
食料品・たばこ	10.6	0.4	1.8	2.9	1.8	2.1
一般機械	10.6	7.9	2.8	8.5	16.7	8.1
化学	8.2	0.6	0.8	0.4	11.7	2.6
鉱工業	100.0	0.3	1.0	4.5	4.2	1.2

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。最新月は速報値。

2. 太線は後方3か月移動平均。

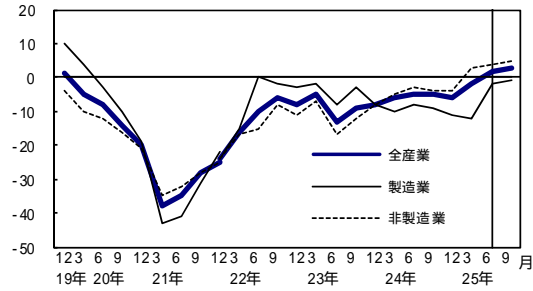
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じており、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

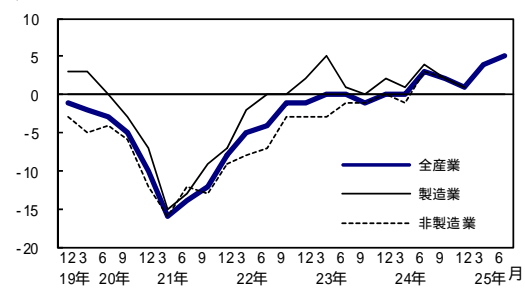
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



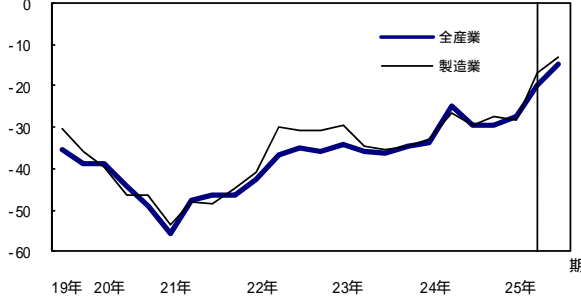
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年9月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



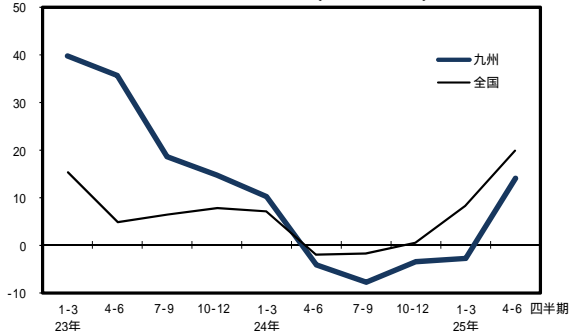
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「設備投資のリース案件が増加した。先々の仕事が見えているので、数千万円もする土木建設機械を購入する計画があったり、ミネラルウォーターの工場を増設、社屋の移転新築などがある(その他サービス業[物品リース])」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績	25年度概
全産業	2.9 (7.7)	21.1 (14.9)
製造業	0.7 (6.5)	0.2 (4.5)
非製造業	4.0 (8.3)	31.6 (19.5)

(備考) 1.()は前回(3月)調査比修正率。

2.リース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.5%増、5月は同0.1%増、6月は同0.6%増となった。

大型小売店販売額

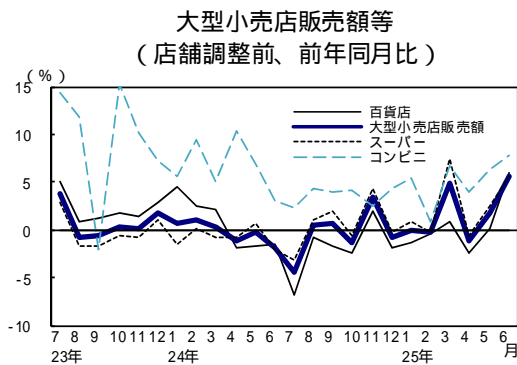
百貨店は、4月は、主力の衣料品の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。5月は、中旬からの気温上昇に伴い、主力の衣料品の動きがよかったこと等から前年を上回った。6月は、気温高で夏物衣料の動きがよかったこと等から前年を上回った。

スーパーは、気温高で夏物商材の動きが総じてよかったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、49.6となり前月より0.4ポイント低下した。

「街に人がいない。切実な問題である (衣料品専門店)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。



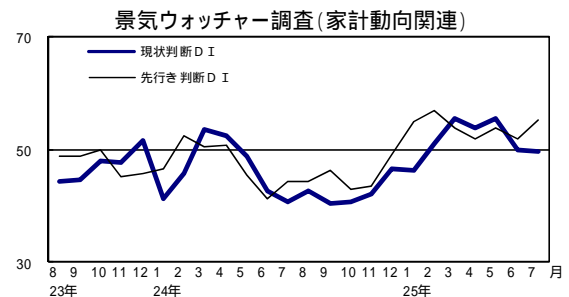
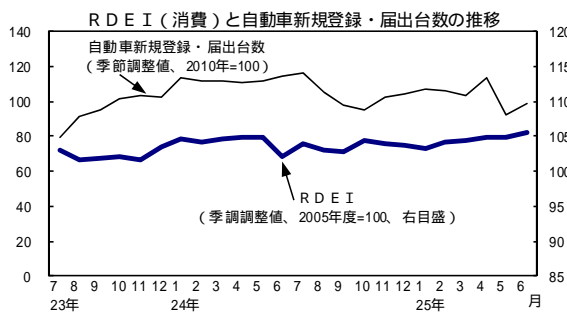
	25年4-6月	25年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.1	0.5	0.1	0.6
大型小売店(*2)	2.0	1.2	1.7	5.7
百貨店(*2)	1.1	2.5	0.1	5.9
スーパー(*2)	2.5	0.5	2.5	5.6
コンビニ(*2)	6.1	3.9	6.4	7.8
乗用車(*3)	9.0	1.1	11.6	14.4
(季節調整値)(*3)	3.7	9.3	18.2	6.2

(備考) 1. 季節調整前期(月)比 (%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

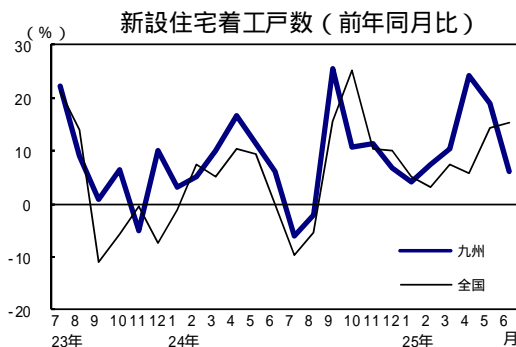
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

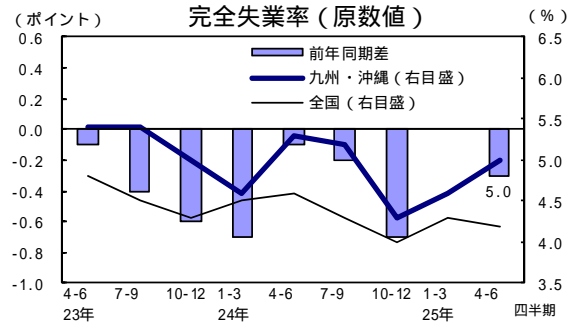
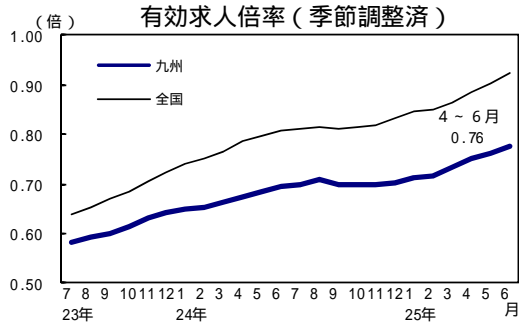


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

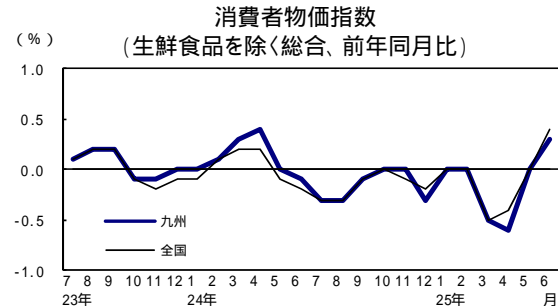
「司会者やコンパニオンを派遣しているが、この夏の納涼会の司会者・コンパニオン依頼が増えている (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
倒産件数	197	211	162	185	68
(前年比)	10.5	1.0	23.9	6.6	6.3
負債総額	398	500	235	319	68
(前年比)	3.1	87.2	33.7	42.5	15.1



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・太陽光発電の住宅設備関連広告が前年の2倍並みの出稿のほか、参議院選挙に伴う広告出稿があった (新聞社)

<先行き>

・輸出型製造業や建設業では景況感が回復しているが、円安による輸入原材料の高騰の影響を受ける業種もみられる (職業安定所)

